

新しい 分かり方

佐藤雅彦

中央公論新社 2017

あとすこしで一年が終わります。一年って本当に早いんですね！みなさん、今年もたくさん図書館をつかってくれてありがとうございました！

さて、日々、生きていくなかで、なにかを「理解」したり、なにかが「わかったり」、人に「伝わったり」とすると、とてもスッキリした気持ち、いい気分になりますか？この本は、まさしく、そんな気分にならせてくれる一冊です。

この本の著者の佐藤雅彦さんをご存知ですか？名前は聞いたことなくても、「ぴたごらスイッチ」といえば、みなさん知っている人も多いのでは？あの「ぴたごらスイッチ」を作った人です。はじめて「ぴたごらスイッチ」を見たとき、わたしは衝撃を受けたのを今も覚えています。なんだ、この映像は！？と。軽快で妙に頭に残る音楽とともに、ただ、ボールが転がり落ちていく、それがどうして、こんなに面白くてわくわくするのか、いつまでも見てられる・・・そして妙に落ち着いてなんだか気持ちよくなるんですね。どうしてでしょう？それは、日常に隠れている不思議な構造や考え方がこの装置につままっているからだと思います。ボールが転がり落ちていく過程をわたしたちは理解し、なるほど！そう進んでいくのね！次は？！とわくわくした気持ちにならせてくれます。この本も「ぴたごらスイッチ」のように、遊び心のある、わくわくできる一冊です。

たとえば、あなたはあみだくじが重複しない（他の人とかぶらない）理由をご存知ですか？縦にひいた数本の線と線の間横の線をくわえ、その線を上から下へとたどっていくあみだくじ。普段なんともなしに行っているあみだくじですが、たしかに一度たりとも同じ場所に下ることはありませんよね。どうしてでしょう？この本にはその答えがのっています。そしてこれをわかりやすく解説するのに、あみだくじの線をなんと紐で実体化しているのが、斬新でおもしろい！

もうひとつ、他にも「何の絵本？」というイラスト。1冊の本を、鬼と人間の子供が見ているのですが、人間の子供は笑いながら、鬼は涙を流しながら見えています。さて、このふたりは一体なんの絵本を読んでいるか、きっとわかるとおもいますよ、というイラストなのですが、みなさんはふたりがなんの絵本をよんでいるのかわかりますか？ふたりは、「桃太郎」を読んでいるのですが、これはむずかしくゆえば、「同じ情報が受け手の状態により、違う価値をもつということ」なのですが、このイラストはそれをわかりやすく証明してくれています。桃太郎が鬼ヶ島へ鬼退治をしにいく「桃太郎」、人間の子供にとって、おそろしい強い鬼を桃太郎がたおす痛快なおはなしですが、鬼にとっては、家に人間が突然攻め込んできて、おそわれてしまうかなしくおそろしいおはなし。だから、二人は同じ本をよんでいても、こんなふうに違いが生じてしまいます。

このふたつの他にも、いろんな例や写真で、そんなこと、普段気にもとめてなかったけど、ゆわれてみればたしかに！と感ずることを、解説してくれます。そして解説をしながら綴られている佐藤さん自身のエッセイもおもしろいです！解説をよまなくても、そういうことか！とわかる、ぱっと見ではわからないけど、解説を読んだら、そういうことか！とわかると、とても心地よいですよ！難しい解説や用語もところどころでできますが、用語の意味を完全に理解できなくても、実際に自分の目や指で体感できるので、きっとハマります！ゲーム感覚で一度ひらいてみてください！そして快くスッキリして新しい年をむかえてみるのもいいかもしれません！